

論文内容の要旨

| | |
|--|-------|
| 氏名 | 藤田 裕人 |
| Relationship between Stress Levels and Endolymphatic Space Volume in Meniere's Disease (和訳) メニエール病におけるストレスレベルと内リンパ腔容積の関係 | |

論文内容の要旨

【はじめに】

メニエール病(MD)のヒト側頭骨病理は内リンパ水腫であることが証明されている。また、MDの発症にストレスが関与していることが疫学的に指摘されている。ストレスホルモンの一つ、バゾプレシン(ADH)はMD患者で高値になると報告されており、小動物vivo、ヒトvitroの基礎実験ではADH投与が内リンパ水腫を惹起することが証明されている。今回我々は、MD患者のストレススコア、血中ADH値、MRI画像による内リンパ腔容積の関係性について検討した。

【対象と方法】

一側メニエール病確実例(uMD)76例、非水腫疾患として良性発作性頭位めまい症(uBPPV)75例を対象とした。EHの評価は内耳造影MRIを施行した。得られたMRI画像を3次元構築して、内耳各部位の体積(TFS)と内リンパ腔容積(ELS)を測定し、ELS率($ELS/TFS \times 100$)を評価指標とした。ストレス評価はうつ性自己評価尺度(SDS)、心理的ストレス反応測定尺度(SRS)、めまいアンケート(mDHI)を用いた。同時にストレスホルモンの1種である血漿バゾプレシン(ADH)濃度も測定し、ストレス指標とした。ELS率とこれらのストレス指標の相関関係を統計学的に検討した。

【結果】

uMD群では、SRSは患側、健側ともにELS率と有意な相関があり、mDHIは患側のみに有意な相関を認めしたが、SDSやADH値には有意な相関がなかった。重度のSDSを有するuMD群では、SRSとELS率の相関は、患側、健側ともに非常に強いものであった。ADH値が低いuMD群では、mDHIとELS率との間に、患側のみにおいて強い相関を認めた。uBPPV群のELS率は、ストレススコア、ADH値ともに有意な相関は認めなかった。

【まとめ】

今回の結果から、uMDにおけるEHの発生には、同側耳だけでなく対側耳でもストレスが関与している可能性が示された。EHを面積比で評価した先行研究では健側のみ関連性を認めたが、EHを詳細に評価する場合、三次元構築する方法が有用となる可能性が考えられる。また、精神神経症的傾向を持つ患者は、ストレスの多いライフスタイルに反応してEHが発生し、その後MD発作をきたす可能性も示唆された。MD患者への不安解消のための心理的サポートが症状のコントロール、予防に役立つ可能性が示唆された。